

後期実施計画策定に向けての検討

■整理方法の流れ（第1回環境審議会を確認したこと）

- ①重点プロジェクトの方向性の整理
- ②位置付ける必要がある事業の選定
- ③事業の進捗管理を行うための指標の選定

今回検討する内容
（プロジェクトの方向性を明確にすることで、その中に位置付けられている事業との関係性を分かりやすくする）

■重点プロジェクトの方向性の整理

①環境基本計画の体系と新たな要素の追加について

これまで重点プロジェクトに位置付けられている事業について、指標等を用いて評価を行ってきた。その中で、課題となっているのは以下のとおり。

<指標関係に係る課題>

- ・活動指標が多く、どのような成果が得られたのか分からない。実践的な活動につながっていることを図れる指標が必要である。（活動指標から成果指標への転換）
- ・成果指標を検討するためには、毎年数値が計測できない等の理由により指標の選定が限定されてしまう。
- ・情勢の変化により、事業の評価の視点も変化するため、より適切な評価を行うためにも指標の追加などを行う必要がある。

<全体に係る課題>

- ・プロジェクトと事業の関係性があいまい。

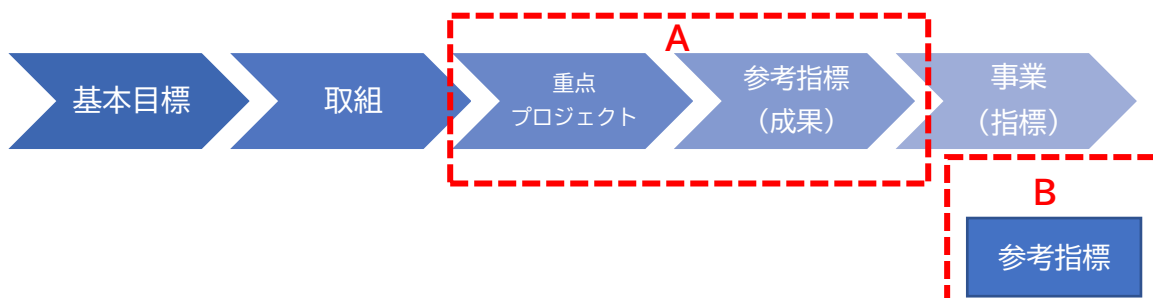
上記の課題を解決するために、計画の体系を以下のとおり見直す。

（別紙「参考1 環境基本計画の体系と新たな要素の追加について」参照）

○これまでの体系



○新たな体系案

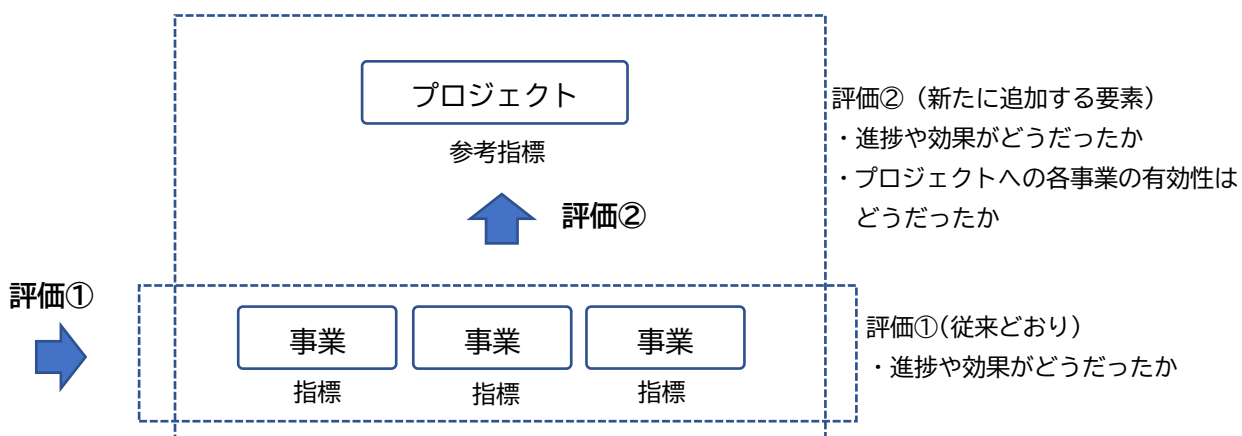


Aについて

- ・望ましい環境像を実現するにあたり、特に重要な事業を3つのプロジェクトとして位置付けている。
- ・各事業の進捗を確認する必要があるものの、本来であれば、事業が進捗することで、重点プロジェクト全体にどのように有効であったのかを確認する必要がある。(プロジェクトと事業の関係性が明確になる)

- 策定案**
- ・プロジェクト全体の進捗を図るため、プロジェクトに「参考指標」を設定する。
 - ・指標については、成果指標を基本とする。
- ただし、第3次環境基本計画には、プロジェクトの指標については位置付けられていないため、後期実施計画においてはあくまでも「参考指標」として設定する。(第4次環境基本計画に向けて、本格的に設定するかを検証する)

※体系と評価の関係性イメージ



Bについて

- ・指標は定点的に計測する必要があるため、毎年度変更することはできない。
- ・一方で、情勢の変化にも対応できるように、必要な視点を適宜追加する必要がある。

- 策定案**
- ・基本的に、指標は変更しない。
 - ・進捗を図るために新たに必要となる場合には、「参考指標」として追加する。

②基本目標と取組内容の整理表

- ・実施計画の重点プロジェクトの方向性を明確にするためには、上位計画である環境基本計画の「基本目標」とそれらに紐づけられた「取組」の考え方をベースにする必要がある。
- ・基本目標である「自然環境」「生活環境」「地球環境」「活動の輪」において、どのような取り組みの方向性が示されており、その中で何を重点的に進めるかについて別添のとおり

り整理した。

(別紙「参考2 基本目標と取組内容の整理表」参照)

○整理表の見方

- ・「基本目標」「取組目標」「取り組み内容」には、環境基本計画に定めた内容を記載している。
- ・「取り組み内容」のうち、「★」の内容が取り組みの方向性を示しており、それらを「取組のキーワード」として整理した。
- ・「取組のキーワード」について、「重点での取扱（案）」の中で、重点プロジェクトでどのように取り扱っていくかの方向性を「採用」又は「不採用」として整理した。

③環境基本計画の指標の考え方イメージ

上記①②を踏まえ、新たに追加する指標（成果）として想定できる指標例を別添のとおりまとめた。これらをもとに、今後の審議会の中で協議を重ねていく。

(別紙「参考3 環境基本計画の指標の考え方イメージ」参照)